

講座実施報告（FIC 会員向け）

講座名	第3回みどりの教室 海と森の関わりを知る----千葉市に残された海の記憶を辿る		
開催日時	2025年 5月 20日（火） 9時30分～14時30分		
開催場所	JR 幕張駅～大須賀山～三代王神社～花見川千本 桜緑地公園	一般参加者	18名

①活動概要（FIC 会員向けであることを意識して作成をお願いします）

千葉市は、日本の都市の中でも特に海との関わりが深い地域で、有史以前から人々の生活に海が深い関わりを持っていました。且つ自然の植生も、潮風に強く海岸近くに多い樹木からなる森が存在していた。しかし戦後に行われた千葉市東京湾岸の大規模な埋め立て工事と、近年の自然災害（大雪、台風）によりその面影がかなり失われつつある。

今回はタブノキとヤブニッケイ主体の海岸林（大須賀山）、更に少し内陸に位置する森（三代王神社）とを比較し、わずかな海岸からの距離差と標高差、更に自然災害が如何に森の植生を変化させつつあるかを観察した。

午後は、花見川に接する公園での様々な植物（各種サクラ、カシ、シイ、クワ等々）を観察し識別のポイント等を学んだ。

②珍しい動植物、珍しい生態（写真があれば紹介）

特に珍しいものはなかった。観察主体は、タブノキ、ヤブニッケイ、トベラ、マサキ、シャリンバイ、ウバメガシ等の海岸地域に多く自生する樹木と、スダジイ、ヤブツバキ、モチノキ、アオキ、シロダモ等の山地性樹木。

③講座内容、運営で良かった点、今後にお勧めしたい点

単なる森林観察・樹木観察ではなく、森を取り巻く環境と植生の関連、更には経時的な変化にも着目した観察会だったので、受講者にもより興味を持って貰えた様に思う。

森林や樹木観察以外でも、移動距離が長いので途中の幕張3丁目公園での「山田耕祐とからたちの花のエピソード」、馬加康胤の首塚、馬加城（馬加康胤の居城）、江戸時代から始まり1969年に完成した印旛沼干拓と花見川開削工事などの歴史にふれたことも、受講者に興味を持って貰えたと思う。

④講座内容、運営で反省する点、今後はお勧めできない点

トイレ場所、昼食場所がかなり限定されていたので、進捗の遅れを心配した。さほどの遅れは生ぜずに済んだが、それでも昼食が1時近くになってしまった（予定時刻からは10分程度の遅れ）。

トイレ問題はルート沿いのコンビニを一部の人が活用したが、都市緑化植物園のスタッフのご尽力に負うところ大であった。3年前に同一ルートを辿った時には、トイレは三代王神社と昼食場所に近い花見川区役所を利用して問題は生じなかったが、今後はこのような更なる配慮も必要になろう。

また幕張駅も改札の先にはトイレがないので、事前に駅職員に「万一、改札を出てしまった受講者も構内のトイレが使えるよう」話をつけておいた、この辺も植物園スタッフに感謝。

⑤ヒヤリハット

上記のトイレ問題以外は無し。

(FIC 参加者)

チーフ講師：稲岡 一義

アシスタント講師：高橋 和枝

オブザーバー：坂本 玲子

(作成：稲岡)